

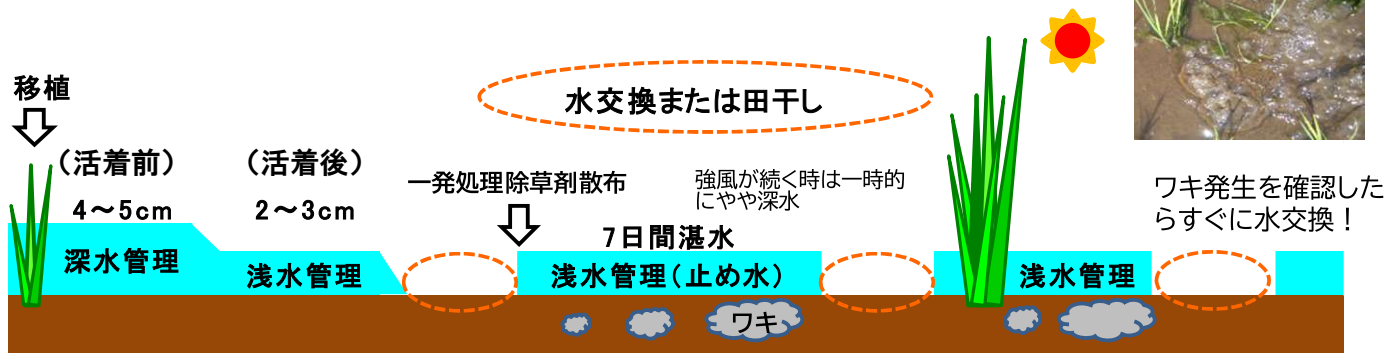
初期生育確保のために①適期移植！②活着促進！③ワキ対策！

1 適期内移植の徹底

生育量を確保し、登熟条件を有利にするために、移植は5月25日頃までに終了しましょう。晩生品種の「つや姫」は5月20日、中生品種の「雪若丸」は5月25日までに終了しましょう。

計画通りの移植が難しい場合は、昼夜ハウス・トンネルをしっかりと開放して温度をできるだけ低くし、苗の老化を遅らせましょう。追肥(N0.5～1g/箱)をする場合は、苗の老化が始まる前に行いましょう。

2 活着促進&ワキ対策のポイント＝メリハリある水管理



■ワキは湛水条件下で必ず発生・進行します。特に高温・多照はワキを助長します。ワキを放置するとイネの根がダメージを受けて必要な養水分を吸収できなくなり、地上部・地下部の生育が停滞してしまいます。(右写真)

■一発処理除草剤散布前に、ワキ予防・抑制のために水交換(夕方落水、翌朝入水)または田干し(2～3日落水維持)を行いましょう。

■除草剤を田植同時または田植直後に散布した場合は、次の除草剤を散布する前に水交換または田干しを行いましょう。

■「分けつが増えない」「葉色が薄くなってきた」と思ったら、**まずは水交換または田干し**を行いましょう。追肥はその次の手段です。



根量多い 根量少ない

3 除草剤の効果的な使用

除草剤を散布する時は、剤型に応じた水深を確保しましょう。粒剤は3～5cm、ジャンボ剤・フロアブル剤は5cm程度です。ジャンボ剤・フロアブル剤は表層剥離を解消してから散布しましょう。

止め水期間中に減水が多い場合は、除草剤の処理層を壊さないよう“やさしく”入水しましょう。

4 いもち病・斑点米カメムシ対策

置き苗はいもち病の感染源となることが多いので、補植後は、置き苗を速やかに処分しましょう。

斑点米カメムシ類は農道・畦畔等で繁殖します。面的・継続的に除草し、斑点米カメムシ類が生息しにくい環境を作りましょう。

STOP ! 農作業事故 春季農作業事故防止運動 4/10～6/10

◎ 田植え機で圃場へ進入・圃場から退出する際は、転倒事故に十分注意しましょう。

◎ 農業機械の点検やトラブル対処の際は必ずエンジンを止めましょう。